

調査の成果

調査の結果、トレンチ1-1・トレンチ3において墳丘を覆う葺石の一部を確認しました。造山古墳の形や規模を今後追求していくうえで貴重な発見といえます。今回確認した葺石は2か所とも基底部が直線的に並んでおり、墳丘の端部にあたるものと思われます。トレンチ1-1では、基底部に当たる部分が残っており、それより上の部分はすでに失われていました。

一方トレンチ3では、トレンチ1-1に比べ保存状態が良好でした。基底部には大きな礫を敷き、その上にやや小ぶりの礫を置いています。調査区内では5段ほど置かれた状態を確認できました。

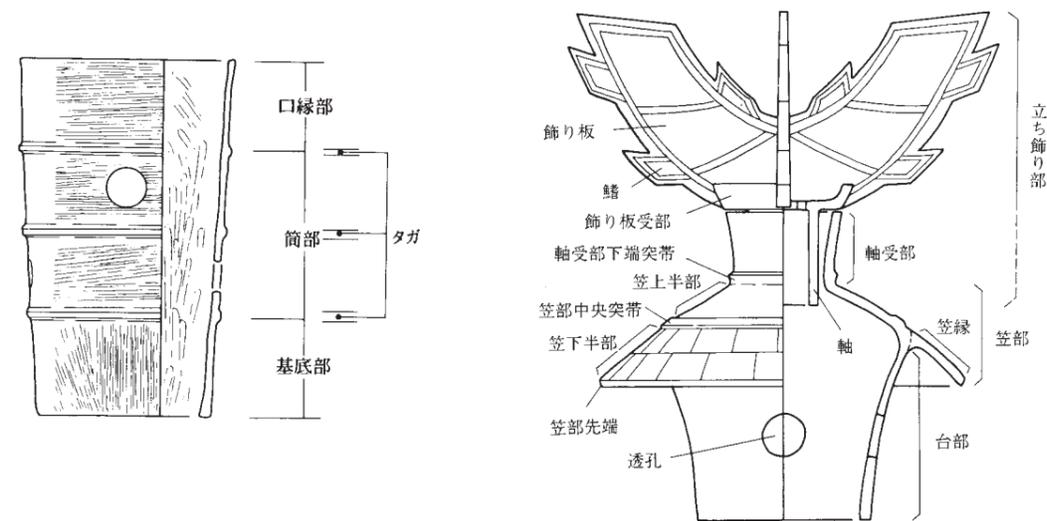
葺石の多くは花崗岩の角礫を用いています。また直接地山に置かず、整地した土の上に置いているようです。

残念ながら、前方部の角部分の葺石はすでに失われているようです。また、トレンチ2-1では後世の改変によって葺石はすでに失われていました。造山古墳の裾部分は、後世の改変によって部分的に失われているものと考えられます。

また、発掘に伴って埴輪がたくさん出土しました。造山古墳ではこれまでに埴輪が採取されていましたが、発掘調査によって出所が明らかである資料を今回初めて得ることができました。この他、各トレンチでは、地山と呼ばれる旧地形の確認調査を行いました。造山古墳が築造されたころの周辺の地形がどのようなものであったのか今後も調べていく予定です。

おわりに

今回の発掘調査によって、造山古墳の墳丘斜面には葺石が葺かれ、その範囲を調べることで、墳形や規模を知ることができるとわかりました。造山古墳の全容解明に向けて、今後の調査計画を立てるうえで、今回の成果は重要な第一歩となりました。



出土埴輪模式図 (左：円筒埴輪 右：蓋形埴輪)

造山古墳発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成28年12月4日(日)

場所：岡山市北区新庄下(造山古墳)

はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳群の保存事業に伴い、造山古墳周辺の発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。今回の発掘調査では、造山古墳の葺石や埴輪列の確認を目的として史跡地内の墳丘裾付近を中心に発掘しました。

造山古墳について

造山古墳は、全長350mの前方後円墳です。古墳の周辺は過去に調査されていましたが、墳丘部分はこれまで発掘調査されておらず、今回が初めての調査となります。築造されたのは5世紀初め頃と考えられます。

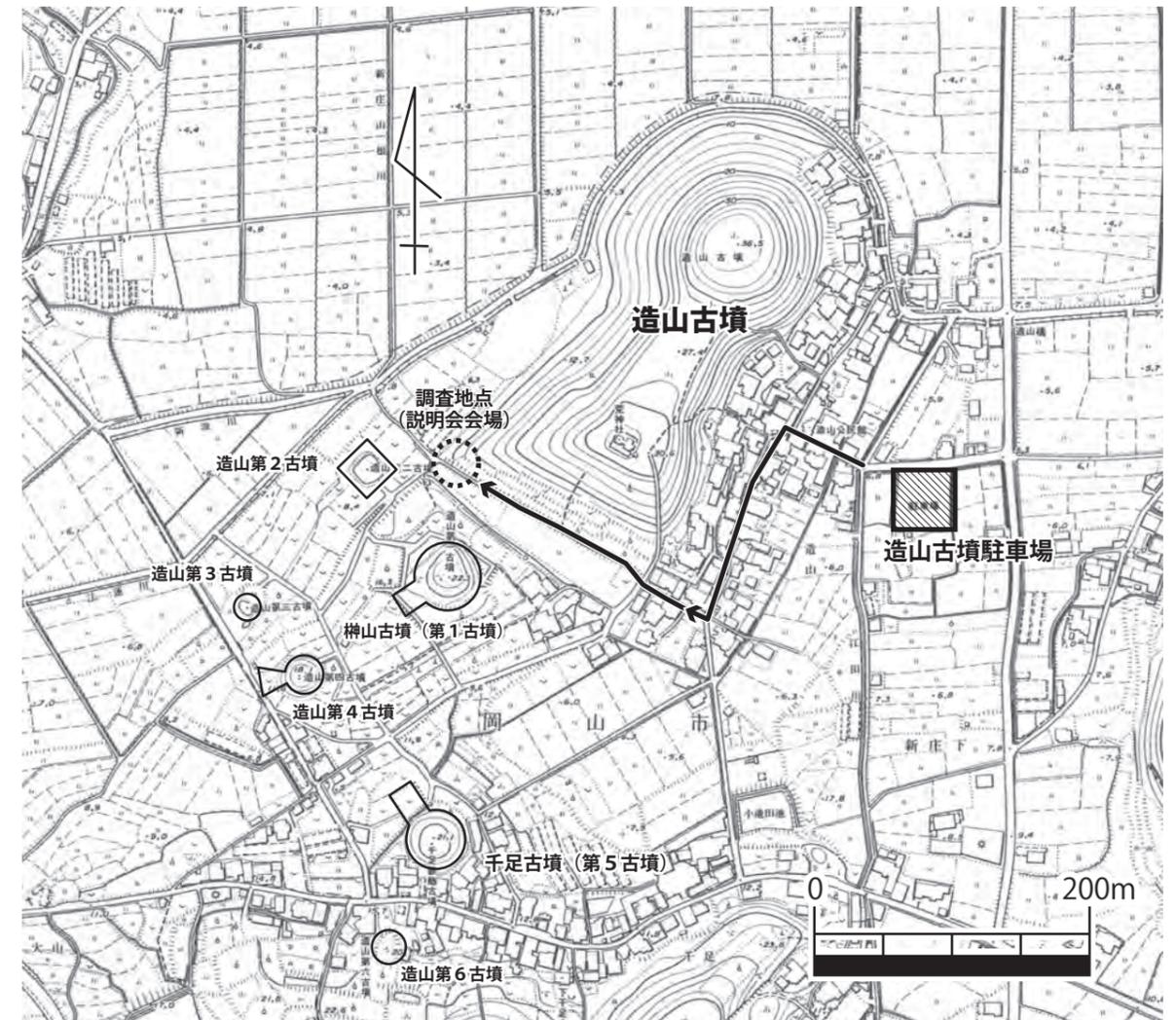


図1 造山古墳群

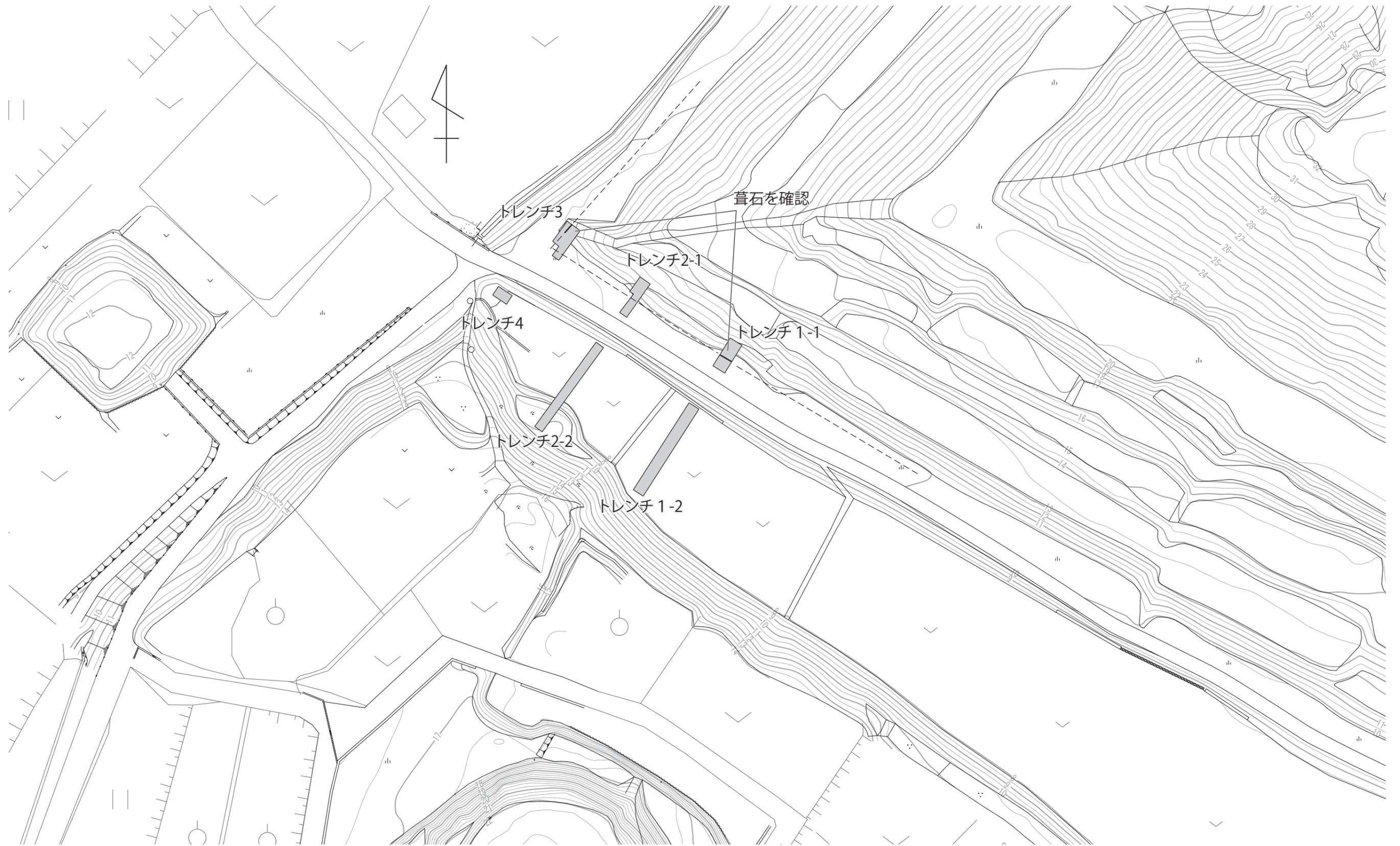


図2 造山古墳調査区全体図 (1/500)